



No.43

2021.11.9

シニアの学び舎

レイカディア大学だより 草津校

シニアが新しい教養と技術を身につけ、地域の担い手として登場できるよう支援しています

第43期生入学式

ようこそ レイカディア大学へ 新たな出会いと学びを求め

秋晴れの下、10月5日草津校において、入学許可者草津校149名（男性94名・女性55名）、米原校61名（男性35名・女性26名）を迎えて、第43期生の入学式が執り行われました。

渡邊学長は「レイカディア大学は40年以上の歴史の中、6300名を越える卒業生を輩出し、卒業された方々は、地域になくなくてはならない存在として活躍されています。皆さんは多くの仲間とともに大いに学び、楽しんでください。そして地域で活躍する実践者となるべく学びを深めてください」とエールを送られました。

三日月滋賀県知事からは「二年間の学生生活を通じて新たな交流を広め、健康で生き甲斐を実感しながら地域づくりの担い手とし、活躍されることを心から期待致します」とメッセージが寄せられました。

取材／近松・前田・野村



大津市瀬田北支所にあったレイ大のチラシを見たのが応募のきっかけでした。息子たちが二人とも環境関連の仕事をしており、近くでボランティア活動もしています。家庭での環境の話題に感化され、私も環境の話題を共有したくて、びわこ環境学科を希望しました。

びわこ環境学科 深田 明江さん（大津市）



新入生宣誓
園芸学科
下方 幹生さん



園芸が趣味で家では多くの薔薇を育てています。滋賀洋ラン会に所属しており、もっと園芸を学びたくて園芸学科を選択しました。

園芸学科 池田 登さん（草津市）



知人の卒業生に色々レイ大での楽しかったお話を聞き興味を持ちました。元々体を動かす事が好きで大津市ウォーキング協会に所属しています。また地元学区の体育振興会の役員もしており、レイ大で学んだ事を活かして地元を発信したいと考え、健康づくり学科を選択しました。

健康づくり学科 塩見 律子さん（大津市）



在校生歓迎の辞

42期地域文化学科 奥村 良雄さん

43 期生募集に対する支援活動報告

43 期生募集のため、5 月から 8 月の応募締め切りまでの期間に大学事務局が主催するレイカディア大学での学習や大学生活、各学科の特徴や授業などの説明会がありました。その後の座談会で、各学科の卒業生が参加者からの疑問や不安等の質問に対して、経験を踏まえた生の声で説明し、大学生活の楽しさを伝えました。この説明会が参加者の入学決意の一助になったと思います。それぞれの参加者数は下記の通りです。

公開講座・大学説明会

| 実施日 | 公開講座参加者 | 大学説明会参加者 |
|-------|---------|----------|
| 6月11日 | 28名 | 19名 |
| 7月9日 | 22名 | 16名 |
| 8月6日 | 1名 | 1名 |

学科説明会

| 学科名 | 実施日 | 参加者 | 実施日 | 参加者 | 実施日 | 参加者 | 参加者合計 |
|---------|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 園芸学科 | 5月26日 | 8名 | 6月9日 | 12名 | 6月21日 | 9名 | 29名 |
| 陶芸学科 | 5月20日 | 5名 | 6月2日 | 7名 | 7月14日 | 8名 | 20名 |
| びわこ環境学科 | 5月26日 | 7名 | 6月16日 | 5名 | 7月14日 | 5名 | 17名 |
| 地域文化学科 | 5月25日 | 2名 | 6月8日 | 5名 | 7月20日 | 8名 | 15名 |
| 健康づくり学科 | 5月27日 | 7名 | 5月31日 | 4名 | 7月29日 | 12名 | 23名 |

ご協力に感謝

第 43 期の学生募集は、コロナ禍のため応募者減が想定され、募集活動にも制約があり、苦戦を強いられると予想していました。その対策に公開講座・学科見学会の回数を増やし、新たに「卒業生との座談会」を設けて、応募者の疑問や不安に、卒業生自らの経験をもとに、ざっくばらんに生の声を届けました。より身近に、親身に感じてもらい、更にレイカディア大学の学生生活の魅力や楽しさを伝えることを期待したところ、多数の参加者とその場での願書提出などの手ごたえを感じました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

学生募集プロジェクトリーダー 河野 安明

<参加者の主な声>

- ☆ 座談会では知りたい事が具体的に良くわかりました、願書を提出します。
- ☆ 卒業生の話で各学科の特色等が良く分かったので良かったです。
- ☆ 卒業生の話聞いて、ワクワクして来ました。
- ☆ 参考になる話が沢山あり、説明会に参加して良かったです。
- ☆ 仕事と両立するか心配だったが日程的に調整出来そうなので安心しました。

レイカディア大学第 43 期学生入学者状況

| 草津校 | | | | | | 米原校 | | | | 総合計 |
|-----|----|-------|------|-------|------|-----|-------|-------|------|-----|
| 園芸 | 陶芸 | びわこ環境 | 地域文化 | 健康づくり | 草津校計 | 園芸 | 北近江文化 | 健康づくり | 米原校計 | |
| 50 | 24 | 19 | 29 | 27 | 149 | 26 | 19 | 16 | 61 | 210 |

入学者数結果報告

42 期生に伝えたいこと

レイカディア大学での出会いを大切に
卒業後の仲間と共に楽しむ活動のあり方を紹介

1. びわこ環境学科 39 期生の取り組み

クラスの絆をいつまでも

人生をリセットし、レイ大で出会った事を大切に健康で楽しく学び、卒業後も仲間を大切にされています。また「びわいち旅物語」と称し自由参加で歩いて琵琶湖の名所を訪ねながら、一周巡るごとにより絆を深め、守山地球市民の森の活動や、琵琶湖博物館はしかけグループ「水と暮らし

研究会」「海浜植物守りたい」に登録し活動を行っている」と紹介されました。クラスの意見を聞き、皆の興味のある環境と健康をキーワードにして、集まる機会を定期的に作ることも継続されています。そんな雰囲気作りが素晴らしかったと思います。

2. 健康づくり学科 41 期生の取り組み

クラスサークル「健交 41」立ち上げ

在学中の大学祭でクラス全員がステージ演芸で手話ソングを披露したことで仲間の絆が強まり、卒業後も一緒に活動しようと誓い合い、クラスサークル「健交 41」を立ち上げられました。地域の担い手として、クラスの誰もがボランティア活動ができる仕掛け作りを目的とし「レイカディアえにしの会」へも団体登録されました。

「音楽で体を動かす」「楽器や手遊びで脳を刺激する」「歌いながら手話を覚える」S ポラ 41 健幸体操は高齢者施設で何度も公演をされています。「楽しかった、良かった、また来てや」など好評で、ボランティア活動のやりがいを実感したと報告されました。

必修講座

卒業生寄付講座

1. びわこ環境学科 39 期生の取り組み
一色 実さん
2. 健康づくり学科 41 期生の取り組み
里 仁さん 他

取材/大平 恭文

九月二十四日(金)

この講座はボランティアや共通の興味の活動を通して、いかにクラスの絆を深めていったかの実践報告です。卒業後も皆さんの活動の参考になるよう切望し開催されました。



クラスの仲間が何時でも気兼ねなくボランティア活動に参加できる環境を作り、親睦も兼ねウォーキングや公演練習会を定期的に行い、交流を大切に、仲間の絆を深めていった良い事例です。

菜園畑、花壇で植栽・管理を実施 園芸の幅広さ・奥深さを実感・共有

入学半年後に新型コロナの影響で休校。再開後も例年とは異なる進め方で、頼りに出来る先輩も卒業され、戸惑いながらもイベント毎に全員で知恵を絞りながら取組んでいます。幸い全員の協力意識が高まり、現環境下で最大限楽しもうという意識がより強くなって来ました。

菜園畑ではスイカの苗を植え、受粉期の5月連休明けから7月末の収穫まで毎日交代で管理を実施、人工授粉・追肥・有機農薬散布にネット張り、管理タグ設置、毎日の成長記録、と全員がスイカに全集中しました。10kg超、5kg級のスイカを収穫し、ご指導頂いた松原先生を囲んで糖度測定後、おいしく賞味し、管理の奥深さを共有しました。



全員がスイカの管理に全集中！
収穫を喜ぶ

びわこ学園の花壇管理も有志で実施し、先生から色々な花の栽培上のコツを教えて頂けるチャンスでもあり全員の楽しみの活動となっています。

卒業まであと数か月となりました。残りの期間で何をすべきか、新1年生の事、卒業後の事なども考慮しつつやり残しが無いように充実した日々を過ごしていきたいと考えています。

42期園芸学科B 学科長 喜多 孝



巨木めぐり



寄せ植え実習



びわこ学園花壇管理

42期陶芸学科

学科紹介

42期園芸学科B

縁あって集まった仲間と 卒業後も続けたい！

陶芸学科は26名が在籍しています。入学者のほとんどが陶芸には未経験でした。

いつの間にか入学して2年がたとうとしています。卒業まで残りはあと半年余りとなってしまいました。

今では上手くなったなと思います。皆さん、見違えるような腕前になっています。コロナで在籍が半年間伸びて練習を積んだこと、それと先生の指導が良かったこと、40期の先輩方が助手先生として我々を指導していただいた成果も大きいと思います。



組皿窯出し



楽焼成引き出し



皿制作

レイ大の他学科向けに 土笛作り教室も開催



土笛絵付け作品

現在、チーム毎に思い思いの課題学習に取り組んでおります。

六古窯(ろっこよう)の歴史を追求、抹茶茶碗作りを極めようとするチームや各産地の土でおいしくビールやコーヒーを飲もうとするチーム、陶器のオカリナのいい音色を楽しもうとするチーム等が作陶を楽しんでおります。

オカリナ作りチームでは土いじりの楽しさを他の学科の生徒にも体験していただこうと、レイ大で土笛作り教室を開催し、土笛作りを楽しんでいただきました。

喜んでいただいたこの経験を活かし卒業後もイベントを開催したいと考えています。縁あって集まった仲間が卒業後も続いていけばと思っております。

42期陶芸学科 学科長 小林 正幸



土笛絵付け



穴窯と作業中のメンバー

窯の模型

仲間が力を合わせ お金をかけず完成

自分たちの穴窯を造ろう！ こんな夢を実現させたのは「みな窯クラブ」（代表：上西久善さん、湖南市）の皆さん。300万円前後かかるところをほとんどお金を掛けず、約2年がかりで完成させた。作業は月2回、畑の一部を整地し、レンガを積み、土で覆い、煙突、屋根などをつけ完成した穴窯本体のほかに、作陶室、薪置き場なども作った。10月には初窯に挑む。

みな窯クラブは37期陶芸学科の卒業生有志15名が卒業後の親睦を目的に結成。2020年には、41期陶芸学科で窯づくり研究に取り組んだ5名が課題学習の縁で入会した。現在20名（男性13人・女性7人、最高齢90歳）で活動中。

穴窯づくりは、知り合いから、使用済み耐火レンガ等の窯づくり資材を無償でもらえることなどがキッカケとなりスタートした。誰も窯づくりは素人ばかり、本を読んで簡単な模型（写真）を作ってプランをたてる所から始まった。

「年金生活者の強み、できる限りお金をかけず利用できる廃材をもらうなどして、ほとんど無償で手に入れた」とのこと。

今春の試し焚きで、窯材の乾燥不足で燃焼室の一部が壊れるアクシデントもあったが「窯が形になっていく楽しみ、仲間と会う楽しみ、そんないい時間でした」と皆さん。「自分たちで造った窯で焼いた力作を集めて作品展をやりたい」と初窯作品を楽しみにしている。

みな窯クラブ会員は、こうした作陶活動だけでなく、NPO法人レイカディアえにしの会のメンバーとして、手作りのオカリナ出前演奏や親子陶芸教室などのボランティア活動にも精力的に取り組んでいる。また年1回の旅行やタケノコ掘りなどの親睦活動も和気あいあいと楽しまれている。

上西代表は「こんなことは、レイカディア大学という横のつながりと一人一人の得意分野を生かした頑張りがあったからできたことです」と笑顔で話されたことが印象的でした。

取材／藤岡 敏文

ボランティア活動チーム「Sボラ41」

「Sボラ41 健幸体操」でチームの絆づくり

私たちは在学中からメンバーとともに取り組んだ課題学習の『スポーツボランティアで仲間づくり』をテーマに、卒業後も自身の健康維持や増進、社会とのつながりづくりを一緒にやりたい。この活動をクラスの仲間へも広げ、かけがえのない友であり続けたいとの思いから活動を開始しました。

最初は、メンバー誰もが、ドキドキしながら自分が担当するテーマを必死で、何とかやることしかできませんでした。場数を踏むごとに内容に工夫を凝らしながら、レベルを上げられるようになってきています。

今では、「Sボラ41 健幸体操」として、三部構成の独自プログラムで行なっています。

①Sボラ体操（音楽♪に合わせて体を動かすリズム体操）



脳トレ体操

②脳トレ体操（昔を懐かしみ、楽器を使ったり、手遊びで脳を刺激する体操）

③手話体操（歌をうたいながら、手話を覚えられる体操）

自分たちができることを増やし、心地よいやりがいを感じられる活動として、自分たちのみならず参加者のみなさんと一緒に、楽しい時間を共有しながら実践できています。「ありがとう」の笑顔の温かさ知り、喜んでいただくことの喜びを見つけることが出来ました。

現在は高齢者向けのプログラムが中心ですが、幅広い年齢層へも展開できるボランティアチームを目指しています。ゲーム感覚で参加できるプログラムも取り入れようと夢がふくらみます。クラス全員が誰でも気軽に参加できるよう、定期的なチーム練習会も定着させボランティア活動を一緒に継続・展開していきたいと思っています。

「Sボラ41」代表 里 仁(41期健康づくり学科)



Sボラ体操

手話体操

